

處々に植春時枝頭毎に背濃紫色面白色の一花新葉と俱に開く、狀蓮華の如し、葢あり香氣を發す、七瓣八瓣あり、實を結ばず、凡萬花陽に隨て開く、然るに此花悉く陰に隨ふ、蓋し陰木なるべし、秋時蓓蕾を生ず、悉く陰に隨ふ、狀筆頭の如し、秋後其葉墜、又玉蘭は花を先にし、葉を後にす、木蘭より早く開花し、八瓣或は九瓣、面背純白色、狀木蘭の如し、葢あり亦香氣を發す、實を結ぶ、其色紅紫鱗甲あり、頂に濃紫色の皮有て、兩裂すれば中に子あり、朱色なり、其全形蟲の朱丸を唾^はたるが如し、甚熟しがたく、夏中に落る者多し、其花亦悉く陰に隨ふ、秋時枝頭毎に蓓蕾を生じ、即陰に隨ふ、秋後其葉墜、又一種瓣下紫色にして、木蘭と俱に開花する者あり、是皆接換して能活す、其性全く木蘭に似たりといへども、舊說辛夷の一種とす、然れども玉蘭の花陰に向は、木蘭の性なり、辛荑の花は陰に向はず、玉蘭を以て辛荑の一種とするは穩ならず、本草綱目辛荑集解云、時珍曰、有白色者、人呼爲玉蘭と而已ありて、其形狀を釋せず、甚疎漏なり、此説は辛夷中の白花なる者にして、今云ふ玉蘭に非ず、疑らくは同名異品ならむ、玉蘭は木蘭の一種なり、物理小識云、玉蘭即木蘭、大理府志木蓮花樹高大花如蓮、有青黃紅白四種、白香山言忠州有木蓮花、王元美謂即玉蘭、智按るに、玉蘭春初開、木蓮四月花、蓋亦有別と、辛夷は花を先にし、葉を後にす、玉蘭は辛夷の如し、故に辛夷の一種とす、然れども櫻に花を先にし、葉を後にするあり、是を以てこれを推ときは、則花葉の先後を以て一槩に別種とするは非なるに似たり、尙後の君子の明辨を俟つのみ、

〔重修本草綱目啓蒙〕

香木

木蘭

モクレンゲ

シモクレン

一名生庭

法言

女郎花

粧樓

庭院ニ多ク栽ユ、叢生ス、木高サ八九尺、葉大ニシテ、柿葉ノ如ク、末廣シ、長サ七八寸、光澤アリ、春新葉ヲ互生シ、初夏枝上ゴトニ一花ヲ開ク、七八瓣、形蓮花ノ如ク、瓣狹クシテ、外ハ深紫色、内ハ白色、微紫、香氣アリテ、瑞香ノ如シ、中ニ寸許ノ心アリ、形筆頭ノ如ク、紫刺亂布ス、汝南圃史ニ、如小浮屠ト云、周邊ニ黃葢アリ、唐山ニハ白花黃花モアリト云、本邦ニハナシ、今世ニ白木蓮ト呼ブ者ハ、玉